

北海道
後志地区農協青年部協議会

後志地区農協青年部協議会 ポリシーブック2016

～若手農業者における政策提言～

後志地区農協青年部協議会

ポリシーブック 2016

目 次

1. 農業政策について
2. 新規担い手対策について
3. 農業経営について
4. 農地の集積、経営規模の拡大について
5. 青年部活動の活性化について
6. 農業のイメージアップについて

1. 農業政策について

ねらい

- 農業者が安心して営農に取り組んでいくためには、法制化等により中長期的に継続される制度を構築し安定した運用をしていくことが必要である。
- 農業政策は農業者のためだけに行われているのではなく、安定した食糧供給を行うことで国民の生活を守るという一面があることを広く国民に理解してもらう必要がある。
- 貿易交渉については、引き続き注視していく必要がある。

現場の現状・課題	個人・青年部の取組	J Aへの要請事項	行政への要請事項	取組の概要
<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業政策の見直しが図られ、現場の意見を汲み取らないまま実施された制度は必ずしも農業者のための政策とはなっていない。 ○ 貿易交渉について、政府は前のめりの姿勢を崩しておらず、また国民への正しい情報が伝わっていない。 ○ 我々農業者は、今後の農業経営に対して大きな不安を感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業政策の方向性の変更等に対応できるよう常に勉強し、政策提言を行う上で必要な知識の習得に努める。 ○ 貿易交渉の仕組の勉強を行い、国内農業を守るという強い気持ちを青年部全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現場の意見・要望を認識し、現場の実情に合った中長期の農業政策の策定を要望して欲しい。 ○ 農業政策の変更・改正や貿易交渉に伴う情報開示・発信を素早く提供できるような体制を構築して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 政策（農業支援など）の方向性が、中長期的に継続される仕組みの構築と安定的な運用を行って欲しい。 ○ 貿易交渉に関し、現状を迅速に公表して欲しい。 	

2. 新規担い手対策について

ねらい

- 離農者や後継者がいないため、農地が不作付・耕作放棄地化している地区が増加しており、農地の受け手が不足する地区での担い手の育成を行うことで、地域農業を活性化する。

現場の現状・課題	個人・青年部の取組	J Aへの要請事項	行政への要請事項	取組の概要
<p>○ 将来への不安</p> <p>○ 婚活事業においては、農業に対する一般の理解が十分では無く、参加者確保が難しい状況である。</p>	<p>○ 新規担い手からの農業技術の相談はもとより、生活等の個人的な相談を受け、地域に溶け込むための橋渡し役となる。</p> <p>○ 仲間として受け入れる体制や理解・雰囲気作りを積極的に行う。</p>	<p>○ 新規担い手への生産から販売までの支援体制の整備・強化を図って欲しい。</p> <p>○ 各種研修を受講してもらい、さらに部会の講習会や技術習得の場への参加の促進を行って欲しい。</p>	<p>○ 長く続けられる人材の選出して欲しい。</p> <p>○ 新規担い手に対する生活基盤及び農地の提供に対する支援体制を構築して欲しい。</p>	
		<p>○ 初期投資に係る資金支援や各種研修に対するサポート体制を充実させ、新規担い手の就農後の支援を行って欲しい。</p> <p>○ 労働者、研修生を育成する機関や年間を通じて労働力を確保するための宿泊施設を整備して欲しい。</p> <p>○ 時代に即した助言とイベント開催などに伴う資金面の積極的な支援を行って欲しい。</p>		

3. 農業経営について

ねらい

- 農家経営の安定化を図るため、生産資材価格・農産物価格の変動や異常気象が農業経営に及ぼす影響の把握と対応策の検討をしてもらうとともに、営農活動に支障のないように必要な支援施策を実施してもらう。
- 農業者自身の更なる経営能力の向上を図る機会を増やす。

①農産物価格・生産資材価格・経営者能力の向上

現場の現状・課題	個人・青年部の取組	JAへの要請事項	行政への要請事項	取組の概要
<ul style="list-style-type: none"> ○ 生産資材価格・農産物価格の変動が、農家経営に大きな影響を及ぼしており、農業経営の継続や農産物の安定供給にきわめて深刻な事態となっている。 ○ コスト管理や品質向上のための努力は継続して行っているが、更にほ場の土壌分析や施肥・防除の分析といった営農に関する分析、また、経営に係る分析を行うなどの営農・経営能力の向上を必要としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 土壌分析等に基づく施肥管理・適期防除を励行し、コスト削減に努める。 ○ 生産原価計算など経営の分析を行い、現状を把握し経営に反映する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安価で有用な資材の提供に努めて欲しい。 ○ 産地のPR強化をし、消費者への情報発信を行い、様々な販路開拓による価格の維持、浮揚に努めて欲しい。 ○ 営農生産技術の提供や、経営相談の窓口の拡充を行って欲しい。 ○ 新しい農薬等の開発、ジェネリック農薬を推進して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際交渉を通じ、日本の農産物のPR、販売ルート確保や資材の安定供給の環境を整えて欲しい。 ○ ワイン特区、6次産業化等に対する支援、経営体系の安定・規模拡充の推進して欲しい。 	

②労働力の確保について

現場の現状・課題	個人・青年部の取組	J Aへの要請事項	行政への要請事項	取組の概要
○ 高齢化と人件費の高騰に伴い、労働力の確保が難しくなっている。	○ 人材確保のため、派遣会社やハローワークなどを活用する。 ○ 季節ごとの労働人員の需要と働ける時期をまとめ把握する。季節労働者の囲い込みを行う。	○ 関係諸機関と連携し、労働力不足の具体的な解決策を導き出し、生産基盤の安定化を図って欲しい。	○ 高騰する人件費に対する対応策を行って欲しい。 ○ 労働者を斡旋管理する組織を作って欲しい。 ○ 多様な農業形態に対応し、季節ごとの労働人員の需要と働ける時期をまとめ、把握できる体制を整備して欲しい（システム化）。 ○ 年間を通じて労働力を確保するための労働者の冬期間の仕事や宿泊施設などを整備して欲しい。	

③鳥獣害対策

現場の現状・課題	個人・青年部の取組	J Aへの要請事項	行政への要請事項	取組の概要
○ 鳥獣による農作物被害が増加しており、対策が求められる。	○ 勉強会の開催と、皆が深刻な問題としてしっかり考える。		○ 実害を減らすための猟銃取得、わな猟免許取得、猟銃維持費、柵・わな等の器具に対するサポートや助成をして欲しい。	

4. 農地の集積、経営規模の拡大について

ねらい

農地の面的な集積を行い、農業経営の規模拡大を行うことで地域の農業を効率化させる。
また、規模拡大をすることで、各々の経営を安定させることにもつながる。

現場の現状・課題	個人・青年部の取組	J Aへの要請事項	行政への要請事項	取組の概要
<ul style="list-style-type: none"> ○ 農地を集積し経営規模の拡大意向があっても、周りに農地の出し手がないため規模拡大ができない。また、出し手となる農地所有者がいても、賃借することが多く、中長期的な営農計画が立てられないことがある。 ○ 遊休地や飛び地による他町村からの参入が見受けられ、地域の協同作業体制が崩れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 法人化による規模拡大等の勉強会を開催し、各地域でメリット・デメリットの話合ができるようにする。 ○ 近場の地域の人たちとの連携を更に強化していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 規模拡大を目指す担い手の相談支援を行って欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 規模拡大に向けた各種制度の説明会の開催や制度の適正な実施を行って欲しい。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ○ J Aと行政、農業委員会などの関係諸機関が連携を強化する体制を整えて欲しい。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の農業振興計画を策定し、それに基づき農地の移動に伴う調整の一役を担っていく。 		

5. 青年部活動の活性化について

ねらい

- 地域によって経営体系が違うことを再認識し、地域に根ざした活動を展開し、互いの理解を深める。また、全部員が、青年部活動の意義を知り、年齢にとらわれない活発な事業運営に取り組む。
- 青年部活動を通じ地域活動や農政活動を行うことで、地域農業の将来を担う人員としての意識の向上を図り、リーダーシップを身に付ける。

現場の現状・課題	個人・青年部の取組	J A への要請事項	行政への要請事項	取組の概要
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 青年部盟友が自ら考え、行動し、青年部活動に積極的に参加し、交流する。 ○ 地域やその青年部の特色を生かした活動を行い、盟友の状況を相互に理解しあえる活動環境を作る。 ○ ポリシーブックを作成するプロセスを通じて、青年部活動の持つ意味を認識し新入部員や若い世代の部員に伝える。 ○ 青年部活動を充実させるための各種研修・勉強会を開き、個人の考えや意見等を言いやすい環境を整え、青年部の一員としての自覚を向上させる。 ○ 食育活動や消費者交流を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 青年部の意見や要望をくみ取り、迅速に施策や事業に反映して欲しい。 ○ 青年部活動を理解し活動支援する体制を構築して欲しい。 		

6. 農業のイメージアップについて

ねらい

○ 消費者と交流活動を通じて、食と農のイメージアップを図る。

現場の現状・課題	個人・青年部の取組	JAへの要請事項	行政への要請事項	取組の概要
○ 農業（者）に対するイメージが正しく伝わっていない・伝え切れていない。	○ 消費拡大事業を通し、素晴らしき農業を伝える。 ○ 農村ホームステイ事業を通して教員・子供たちに農業の魅力を伝える。	○ 異業種交流、農商工連携等で行政とJAが中心となり、新たな加工品の開発やイベント等を実施することで、後志管内の産業を活性化して欲しい。		○ 「ひらふ祭り」において後志産の焼きそばの販売を行った。